

2 質問紙調査の結果

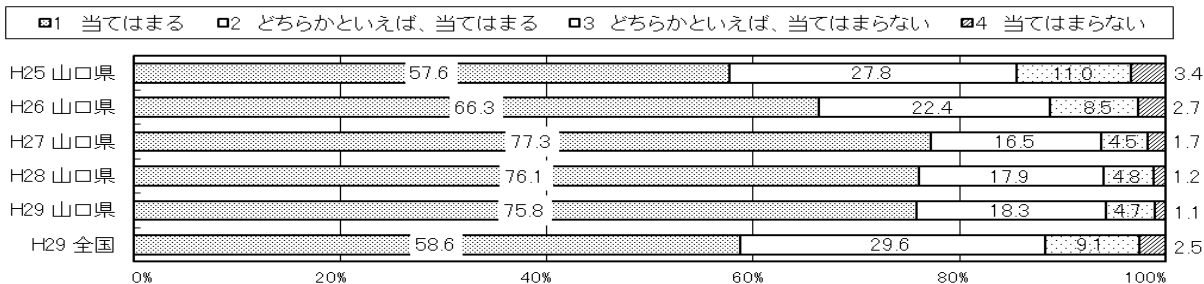
(1) 授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～

①授業の目標（めあて・ねらい）

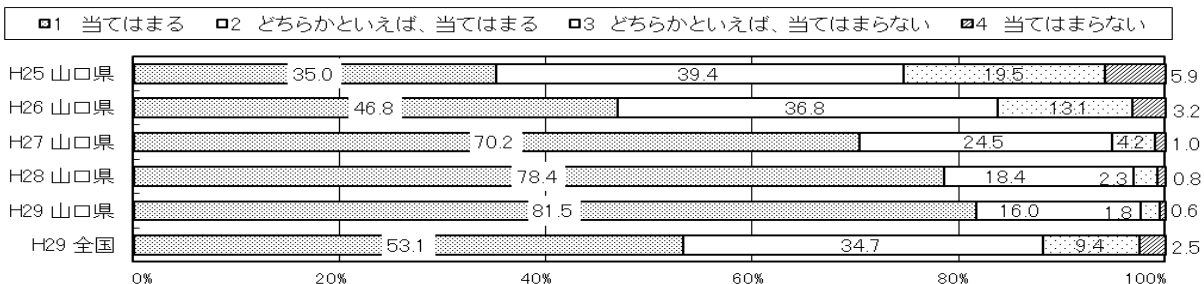
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示すことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差が小さくなっており、特に中学校においては大きく改善しているものの、小学校では依然として差がある。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、児童生徒に目標が明確に伝わり、見通しをもって学習に臨むことができるよう、提示方法を工夫したり、目標の質を向上させたりするなど、計画的に取り組むことが必要である。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (61)授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う

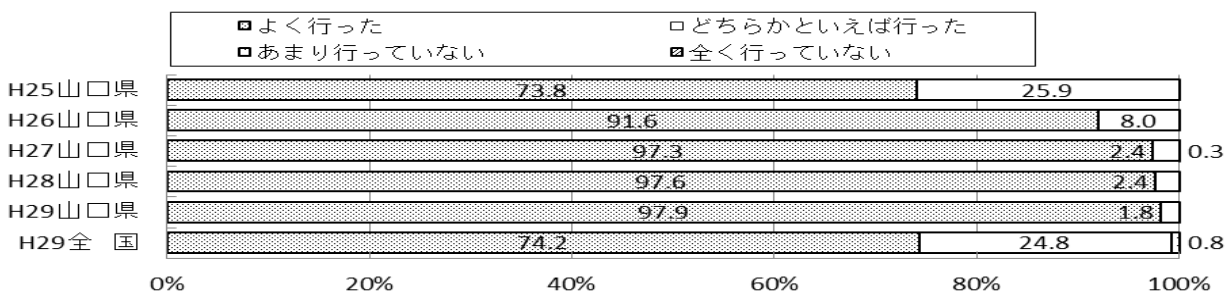


【中学校】 (63)授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う

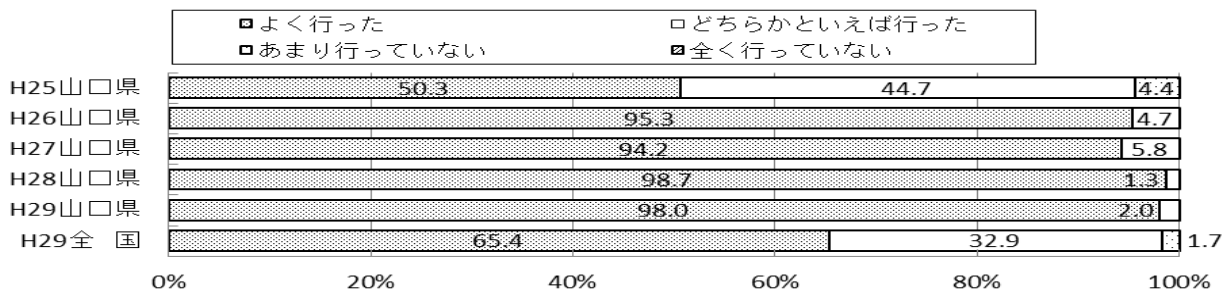


[学校質問紙]

【小学校】 33 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れた



【中学校】 33 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

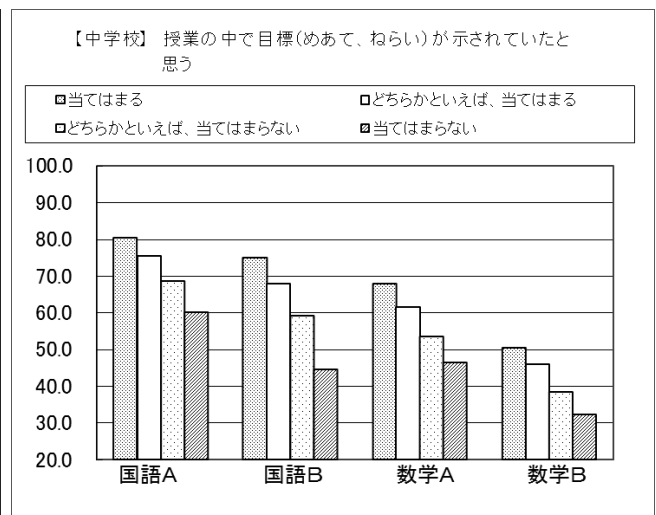
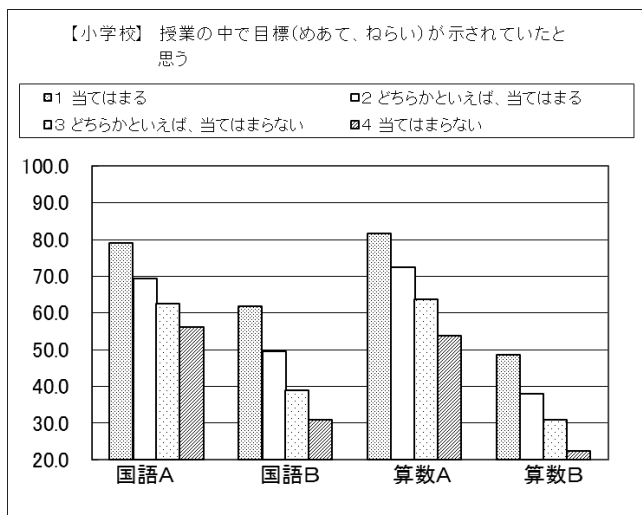
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.7%	85.4%	14.3
26年度	99.6%	88.7%	10.9
27年度	99.7%	93.8%	5.9
28年度	100.0%	94.0%	6.0
29年度	99.7%	94.1%	5.6

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.0%	74.4%	20.6
26年度	98.7%	83.6%	15.1
27年度	100.0%	94.7%	5.3
28年度	100.0%	96.8%	3.2
29年度	100.0%	97.5%	2.5

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

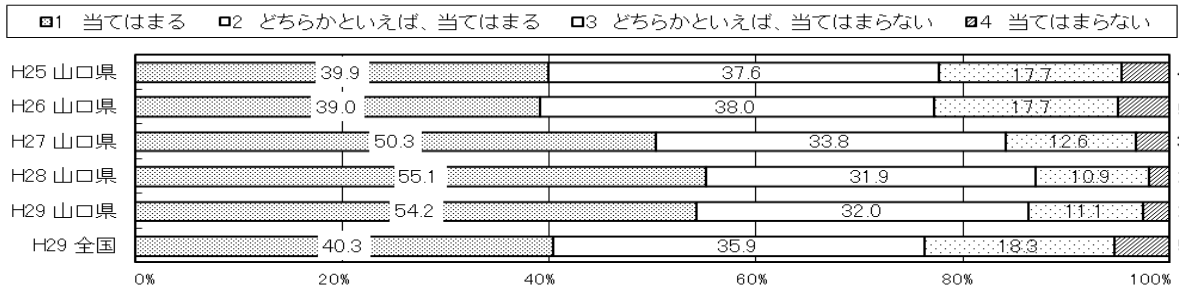


②授業の振り返り

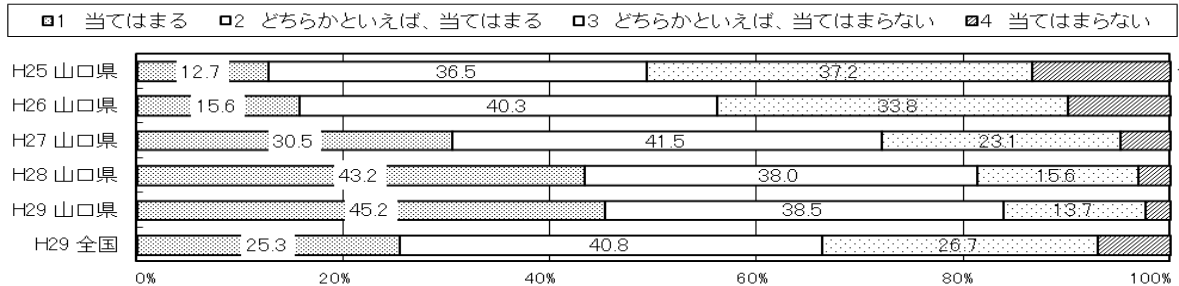
- 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高く、全ての中学校で行っている。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、依然として開きがあり、そのように受け取っていない児童が13.5%、生徒が16.3%いる。
- ☞ 小学校では、肯定的に回答した児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。一方、中学校の生徒には、必ずしもその傾向が見られないことから、毎時間の授業を通じて、何が分かったか、何ができるようになったか等を整理するような、振り返りの活動を計画的に取り入れるとともに、学習の振り返りの質の向上を図る必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (62)授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

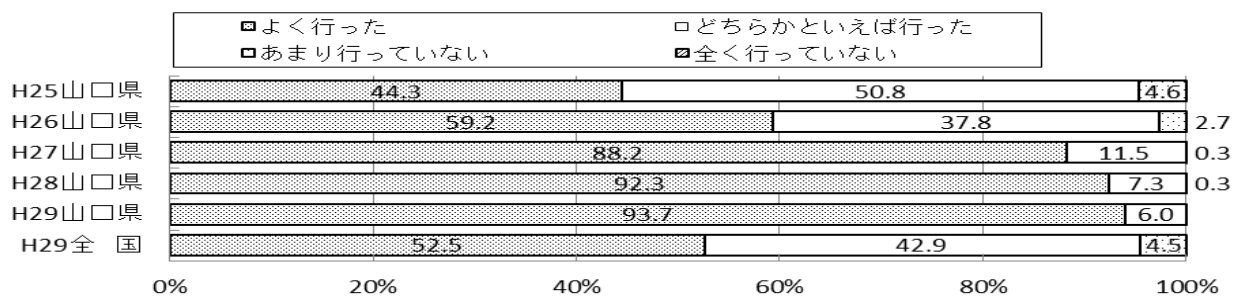


【中学校】 (64)授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

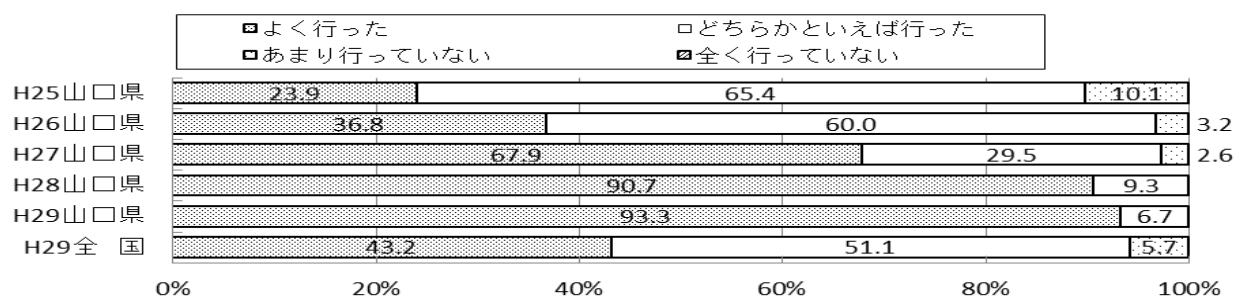


[学校質問紙]

【小学校】 34 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



【中学校】 34 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

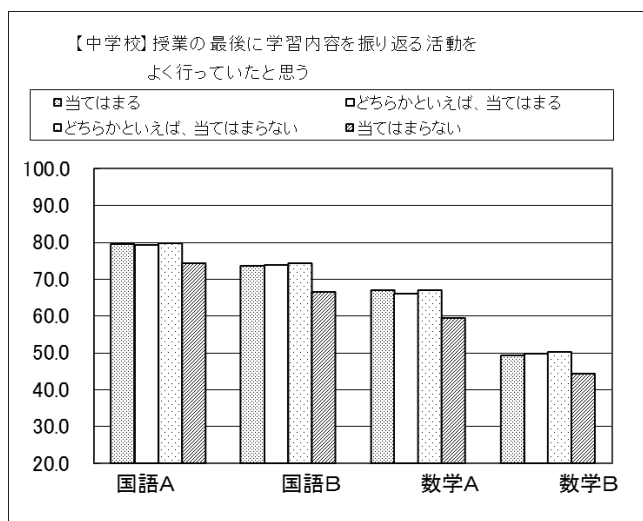
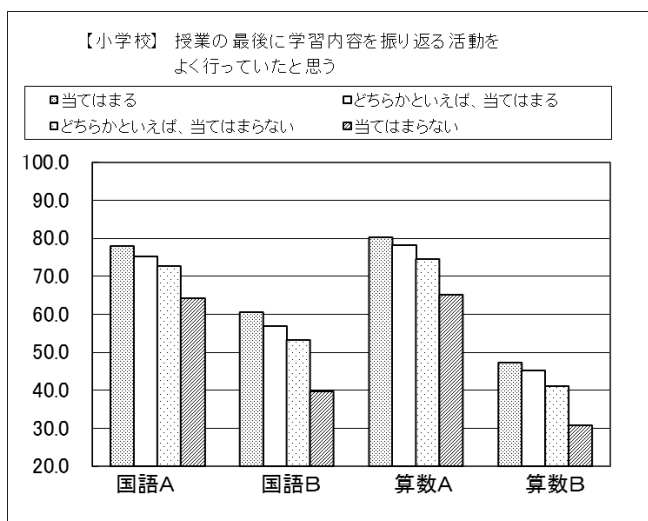
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4
26年度	98.0%	88.9%	9.1
27年度	99.7%	84.1%	15.6
28年度	99.6%	87.0%	12.6
29年度	99.7%	86.2%	13.5

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7
26年度	97.4%	84.5%	12.9
27年度	97.4%	72.0%	25.4
28年度	100.0%	81.2%	18.8
29年度	100.0%	83.7%	16.3

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



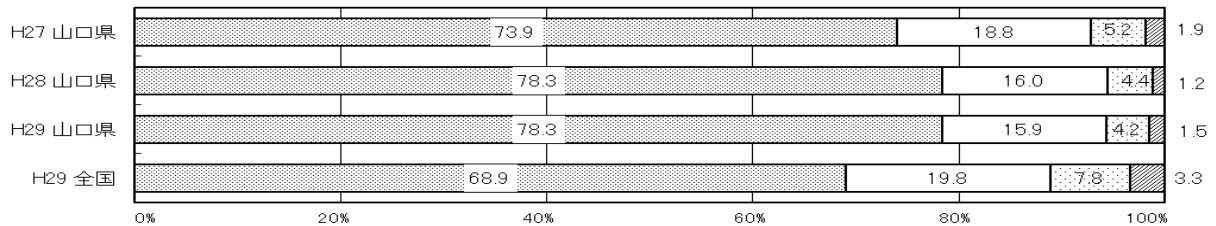
③ノートに目標（めあて・ねらい）とまとめを書く習慣

- 授業で使うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いたと思う児童生徒の割合と、そのように指導した学校の割合は、全国に比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、依然として開きがある。また、小、中学校ともに学校の割合は減少している。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。また、児童生徒の意識は向上していることから、引き続き、目標やまとめの記述が意識できるような働きかけや、効果的・機能的で、より質の高いノート指導を行っていくことが必要である。

[児童生徒質問紙]

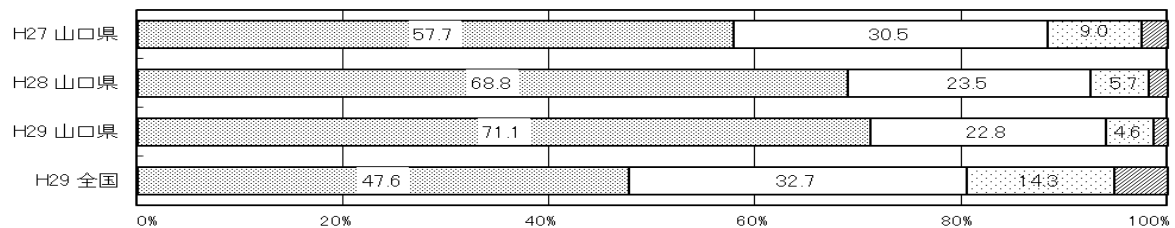
【小学校】 (63) 授業で使うノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (65) 授業で使うノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う

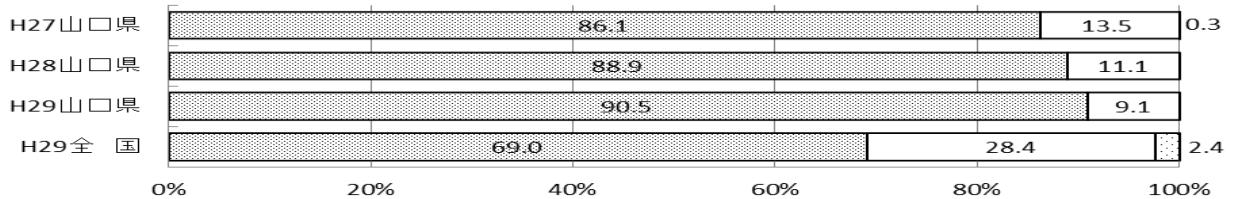
□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



[学校質問紙]

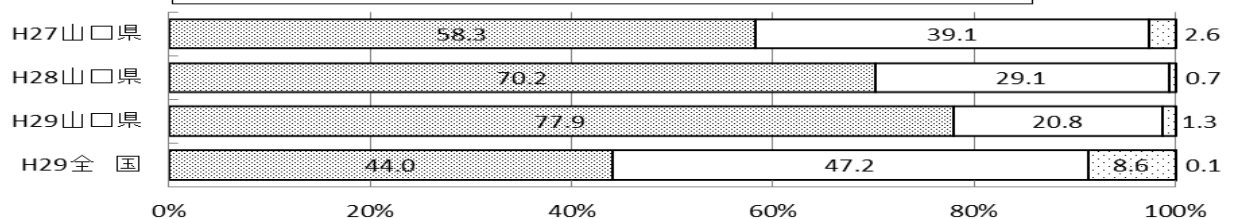
【小学校】 38 授業で扱うノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した

□よく行った □どちらかといえば行った
□あまり行っていない □全く行っていない



【中学校】 38 授業で扱うノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した

□よく行った □どちらかといえば行った
□あまり行っていない □全く行っていない



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

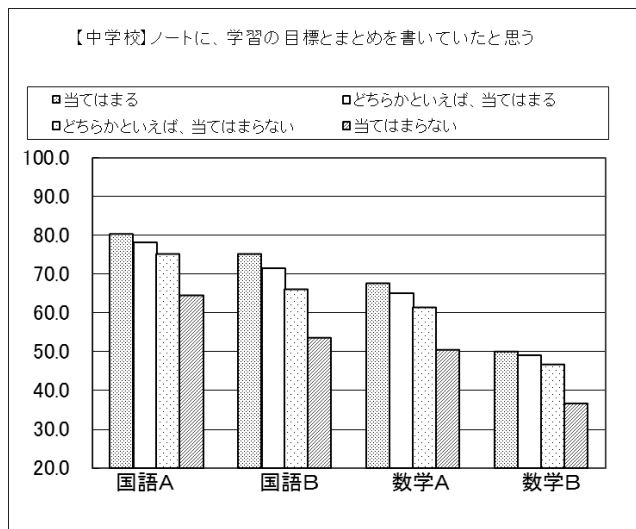
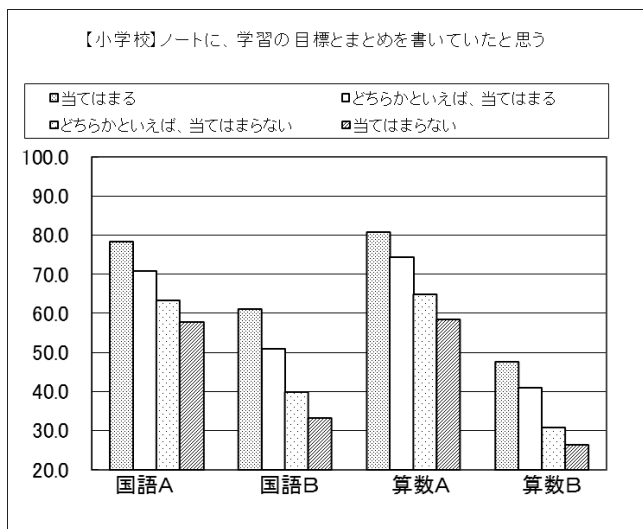
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27年度	99.6%	92.7%	6.9
28年度	100.0%	94.3%	5.7
29年度	99.6%	94.2%	5.4

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27年度	97.4%	88.2%	9.2
28年度	99.3%	92.3%	7.0
29年度	98.7%	93.9%	4.8

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

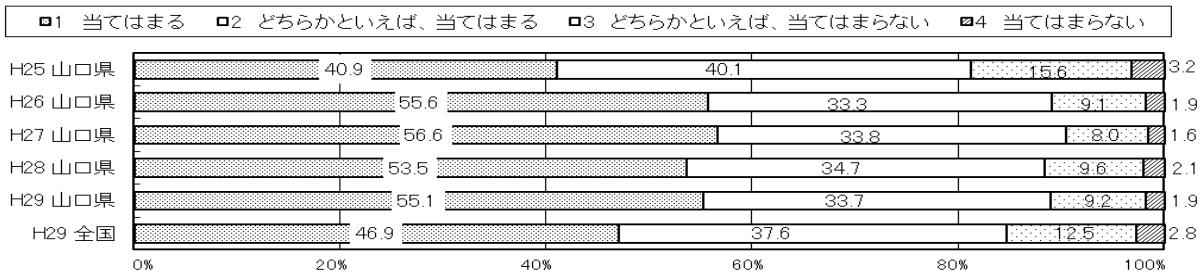


④学級やグループで話し合う活動

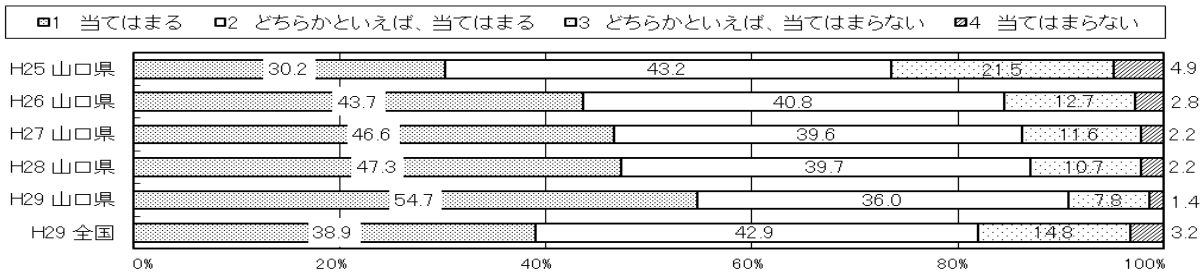
- 授業では、学級の友達との間で話し合う活動を行ったと思う児童生徒の割合と、そのように考えている学校の割合は、全国に比べて高く、中学校では100%である。
- 児童生徒と学校との回答状況を比較すると、中学校では学校、生徒の割合ともに増加傾向にあり、その差も縮まっているものの、小学校、中学校ともに依然として開きがある。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、児童生徒に話し合いの目的や意図を明確にし、効果的な話し合い活動の場の設定に取り組むことが必要である。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (57) 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う

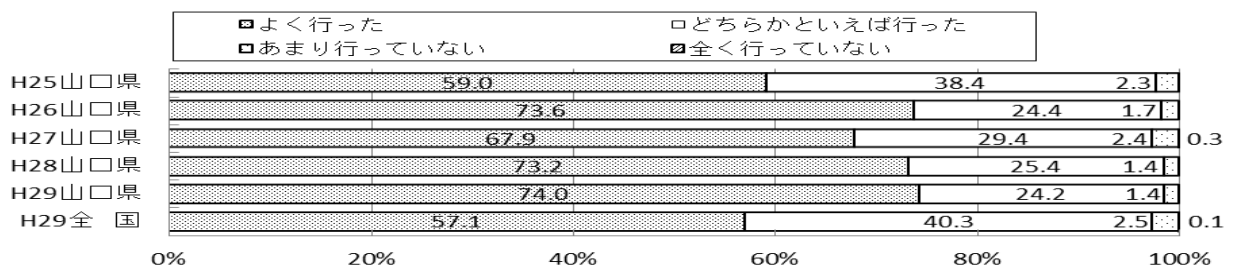


【中学校】 (59) 授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思う

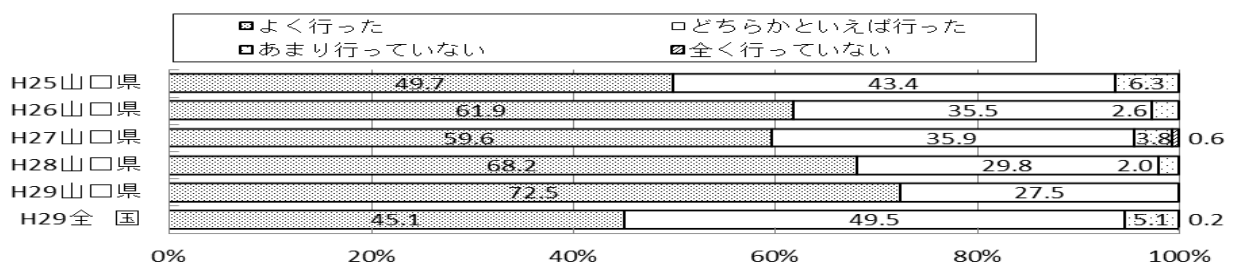


[学校質問紙]

【小学校】 39 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



【中学校】 39 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

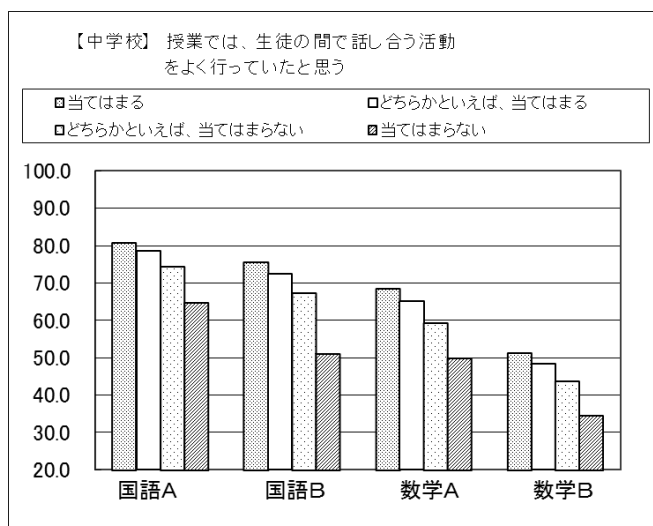
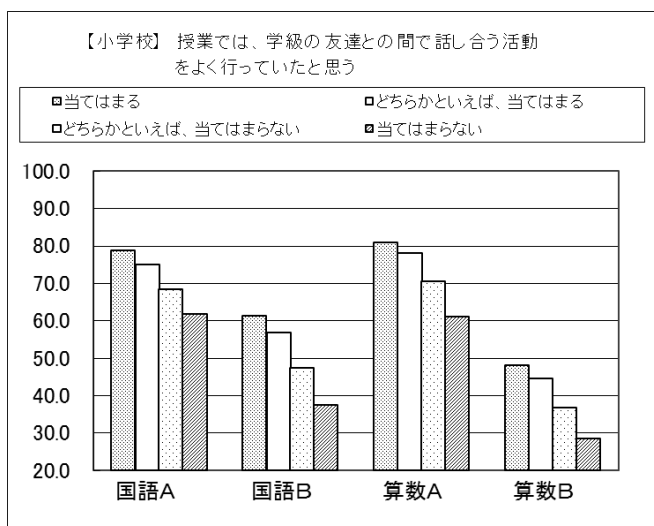
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4
26年度	98.0%	88.9%	9.1
27年度	97.3%	90.4%	6.9
28年度	98.6%	88.2%	10.4
29年度	98.2%	88.8%	9.4

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7
26年度	97.4%	84.5%	12.9
27年度	95.5%	86.2%	9.3
28年度	98.0%	87.0%	11.0
29年度	100.0%	90.7%	9.3

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



⑤話合いで自分の考えを深めたり広げたりする

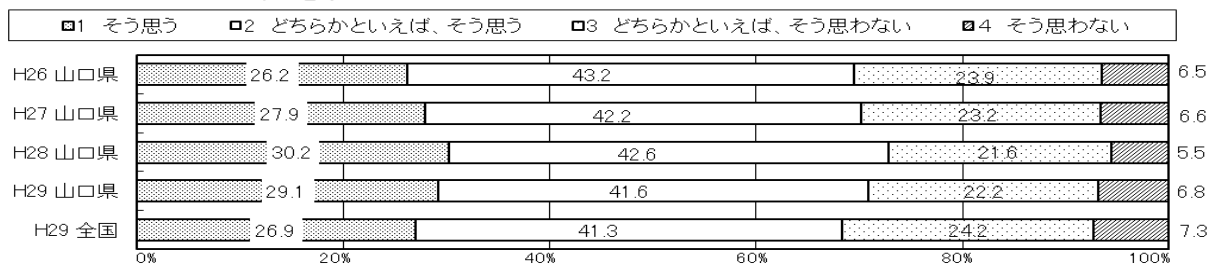
○ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う児童生徒の割合は、全国に比べて高い。また、児童生徒ができていると考えている学校の割合も全国に比べて高い。

● 児童生徒と学校との回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は大きく、特に小学校の差が大きい。

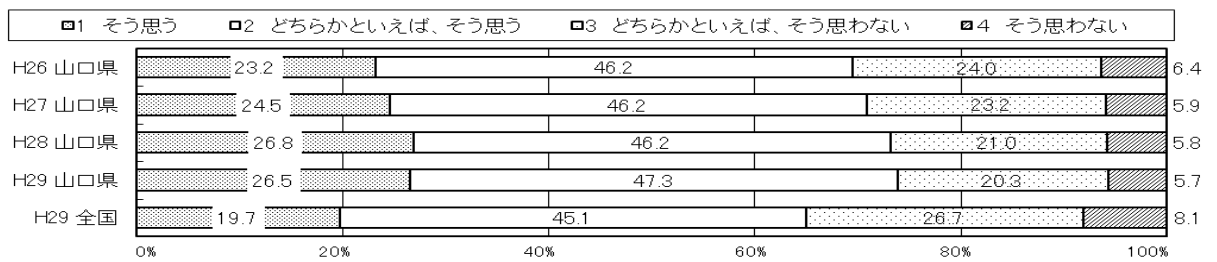
☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、話し合う内容を精査したり、話し合いにより自分の考えがどのように変わったかを子どもに自己評価させたりすること等により、考えを広げ深める「対話的な学び」の実現ができているかという視点で、授業改善を考えていく必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (68) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う

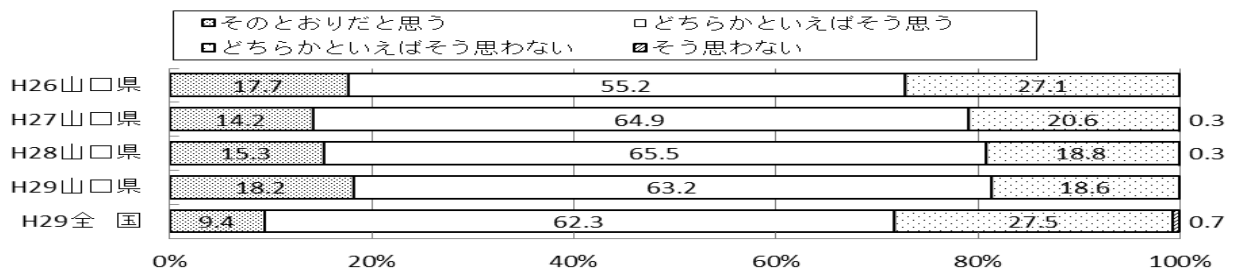


【中学校】 (70) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う

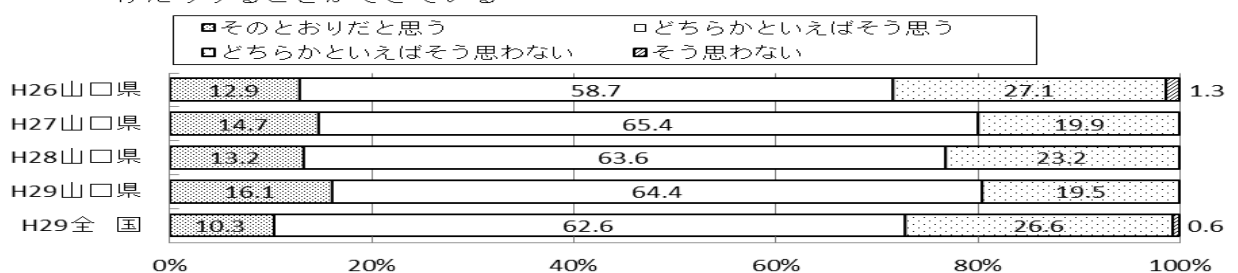


[学校質問紙]

【小学校】 17 児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



【中学校】 17 生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

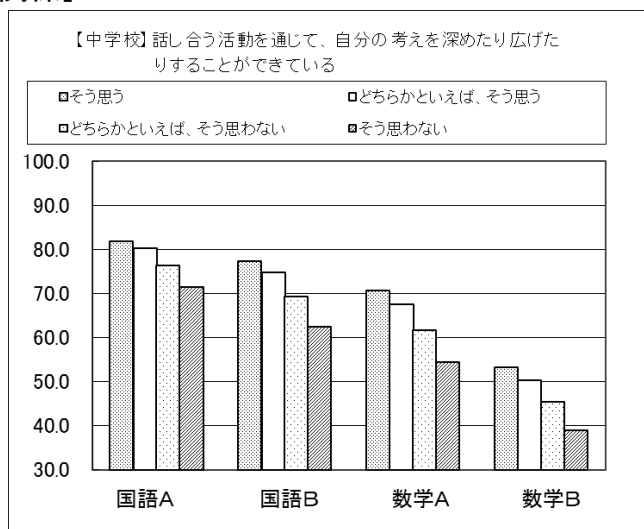
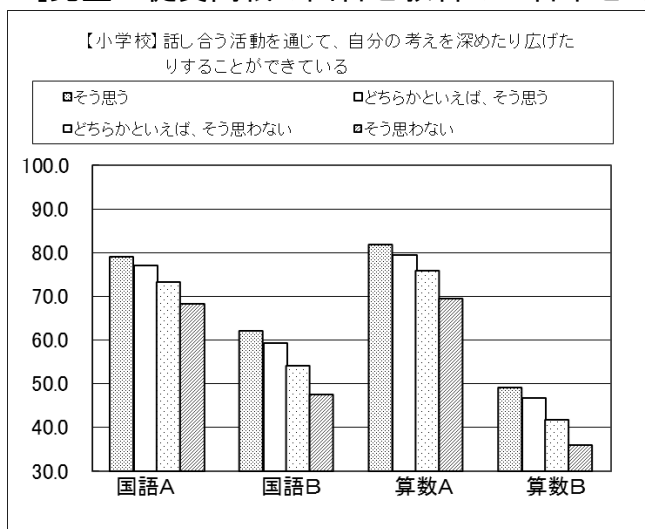
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「そう思う」・「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童の割合	
26年度	72.9%	69.4%	3.5
27年度	79.1%	70.1%	9.0
28年度	80.8%	72.8%	8.0
29年度	81.4%	70.7%	10.7

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「そう思う」・「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合	
26年度	71.6%	69.4%	2.2
27年度	80.1%	70.7%	9.4
28年度	76.8%	73.0%	3.8
29年度	80.5%	73.8%	6.7

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

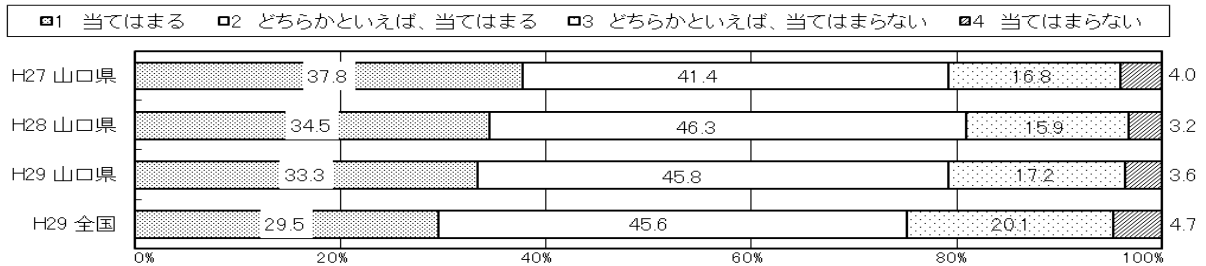


⑥課題解決的な学習活動

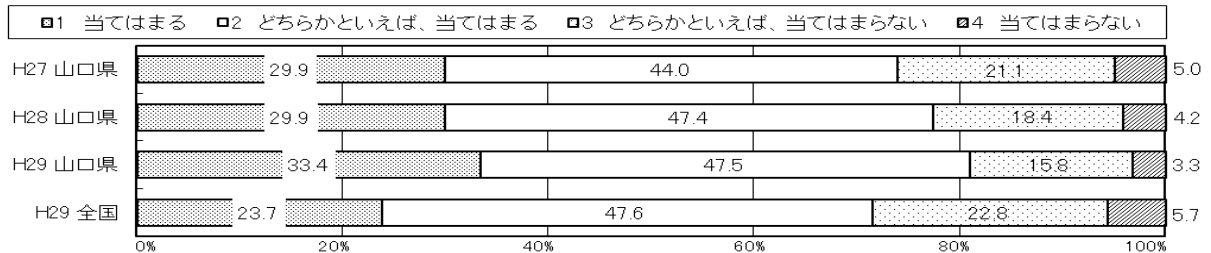
- 授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、そのような活動を行ったと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。
- 中学校では、学校、生徒ともに肯定的な回答の割合は年々増加している一方で、小学校の児童は、学校の回答に反して減少傾向にある。また、児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は、小学校、中学校ともに大きい。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、新学習指導要領の趣旨を理解し、各教科等の特質に応じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に積極的に取り組んでいく必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (58) 授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

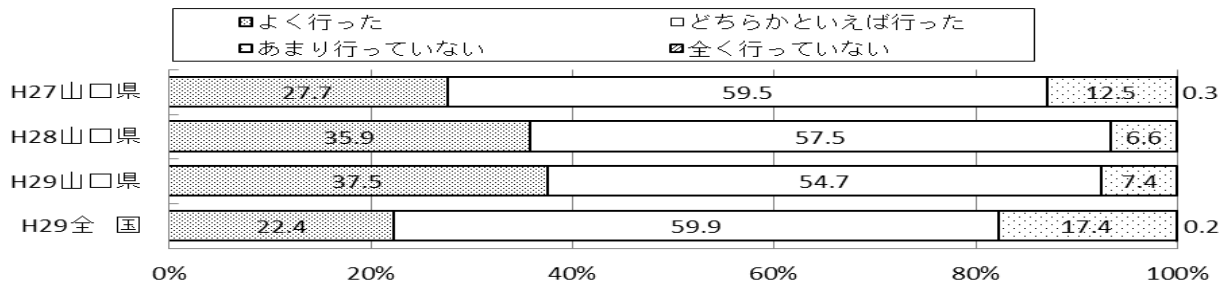


【中学校】 (60) 授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

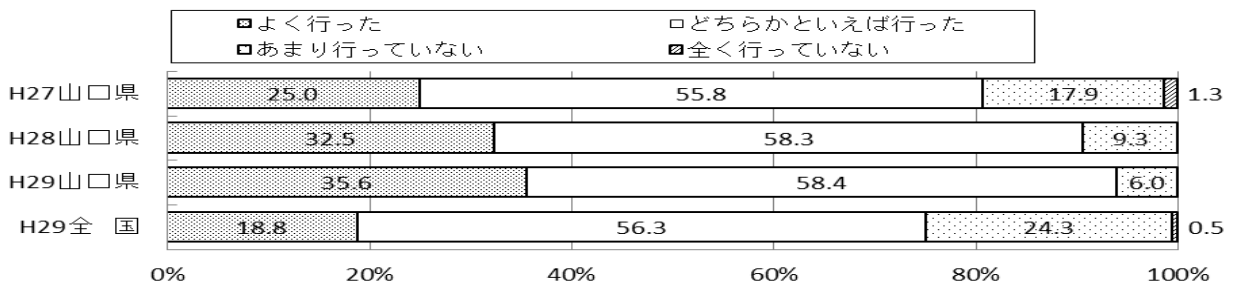


[学校質問紙]

【小学校】 41 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



【中学校】 41 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		
27年度	87.2%	79.2%	8.0
28年度	93.4%	80.8%	12.6
29年度	92.2%	79.1%	13.1

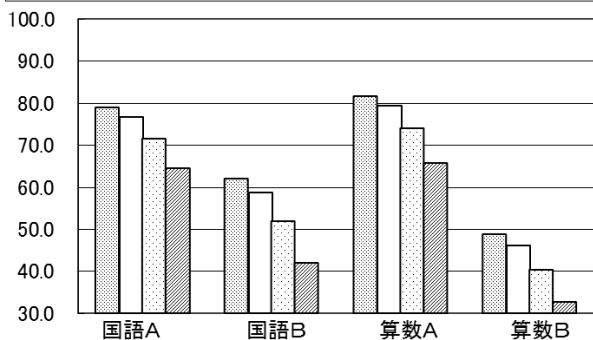
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		
27年度	80.8%	73.9%	6.9
28年度	90.8%	77.3%	13.5
29年度	94.0%	80.9%	13.1

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

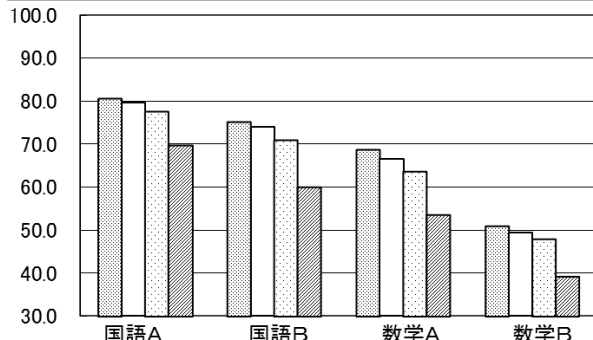
【小学校】授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



【中学校】授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

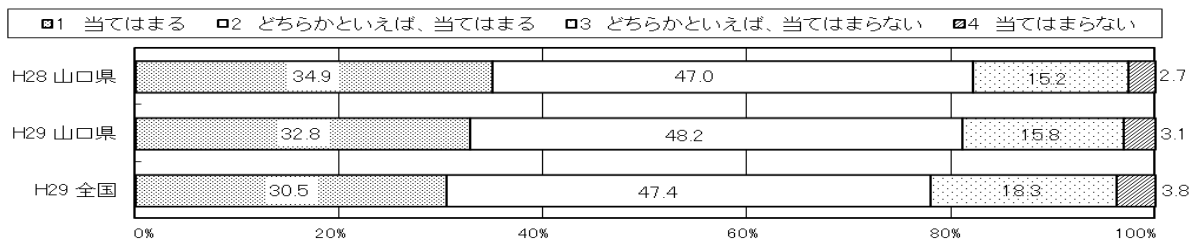


⑦課題に向き合う姿勢

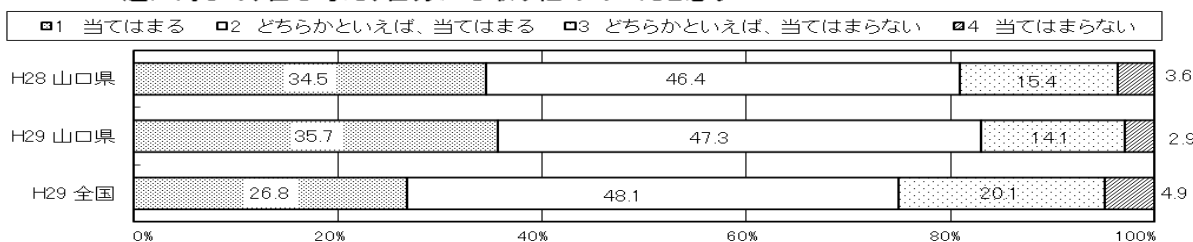
- 先生から示されたり、自分たちで立てたりした課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、児童生徒が課題を理解して授業に取り組んだと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、「そのとおりだと思う」学校の割合より、「当てはまる」と思う児童生徒の割合の方が高いものの、肯定的な回答の合計の割合は、学校の方が高く、課題の理解や取組に対する捉え方の違いがうかがえる。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、子どもたちが興味・関心を持ち、見通しをもって取り組める、「主体的な学び」の実現に向け、課題の設定の仕方や取組の充実に向けて工夫改善を行いながら、授業改善を行う必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (55) 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う

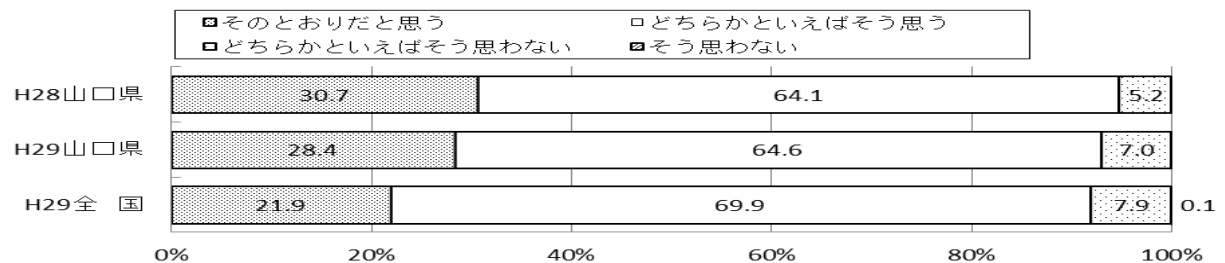


【中学校】 (57) 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う

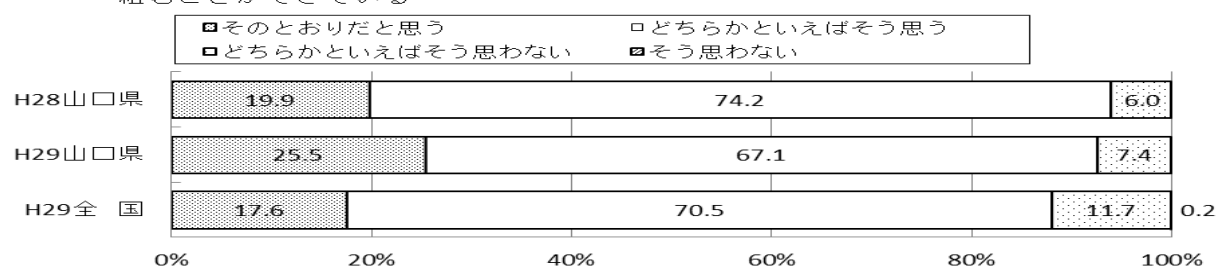


[学校質問紙]

【小学校】 18 児童は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができる



【中学校】 18 生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができる



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

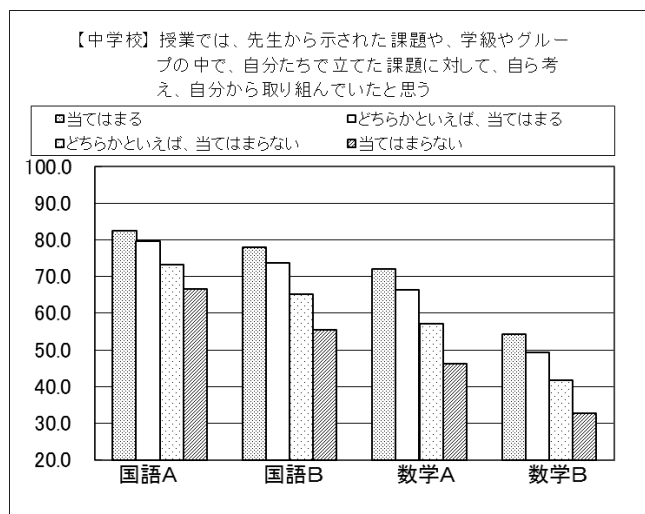
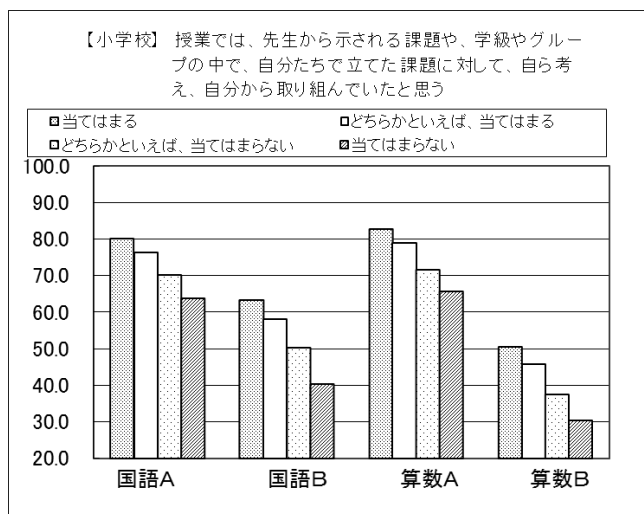
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
28年度	94.8%	81.9%	12.9
29年度	93.0%	81.0%	12.0

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
28年度	94.1%	80.9%	13.2
29年度	92.6%	83.0%	9.6

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

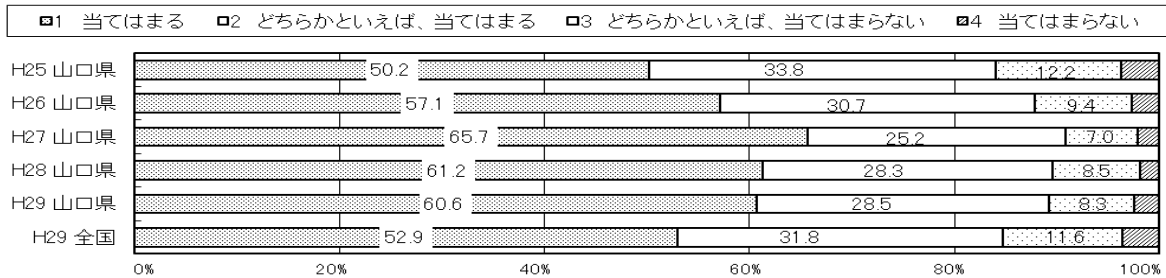


⑧子どもの発言や活動の時間の確保

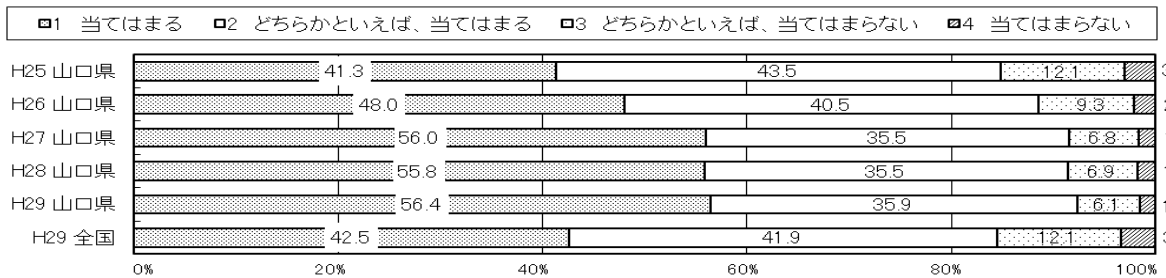
- 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答した児童生徒の割合と、そのような時間を確保して授業を進めた学校の割合は、全国に比べて高い。特に、中学校は学校、生徒ともに増加傾向が見られる。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が指導を行ったと回答しているものの意識の差が見られ、特に小学校の児童と学校との意識の差は依然として大きい。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、各教科等の特質に応じて、児童生徒が、発言や活動ができた実感できるような場と時間をどのように取り入れるかを考えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動を計画的・継続的に充実させることが必要である。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (56)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う

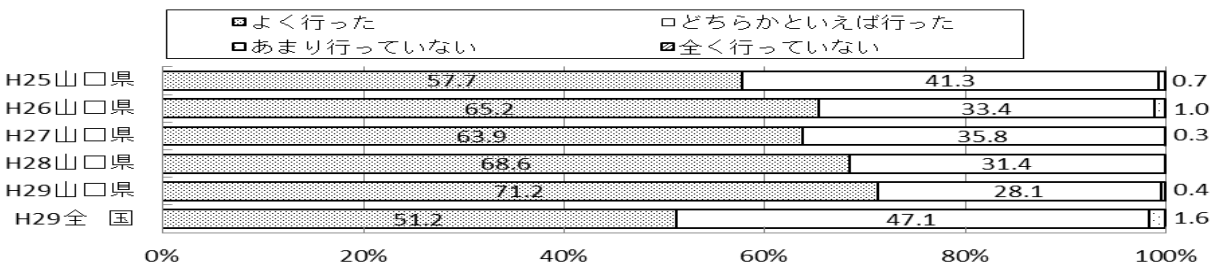


【中学校】 (58)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う

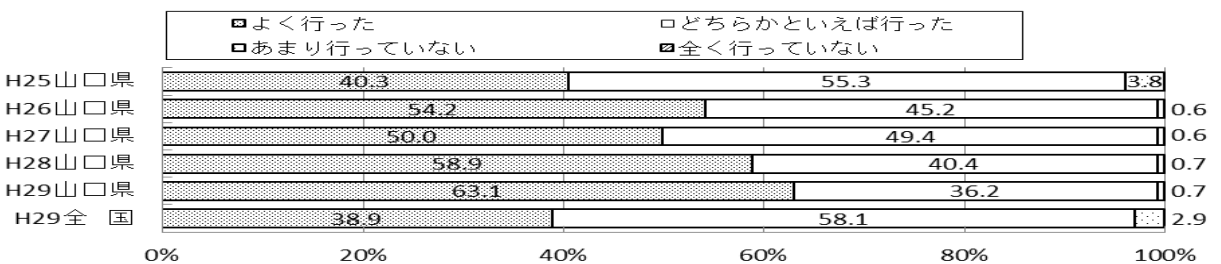


[学校質問紙]

【小学校】 37 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた



【中学校】 37 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.0%	84.0%	15.0
26年度	98.6%	87.8%	10.8
27年度	99.7%	90.9%	8.8
28年度	100.0%	89.5%	10.5
29年度	99.3%	89.1%	10.2

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.6%	84.8%	10.8
26年度	99.4%	88.5%	10.9
27年度	99.4%	91.5%	7.9
28年度	99.3%	91.3%	8.0
29年度	99.3%	92.3%	7.0

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

